



施設栽培における省エネ対策



野菜

小林 優介
下島営農指導センター
080-1729-1635

原油価格が高止まりしているなか、農家の経営にも影響を及ぼしています。そこで、我が家でも出来ることをもう一度、見直していただければと思います。

1. ハウスの気密性を高める。

- (1) ビニールの破れや隙間を無くす。
- (2) 出入口の内外にフィルムを張り、冷気の流入を防ぐ。
- (3) 谷部、サイドは、妻面から1.5m程度重ね代をとって、風の侵入を防ぐ。

2. 多重被覆を導入する。

- (1) 可能な限り多重被覆を導入する。
- (2) カーテンが変質したり、破れたりしている場合は交換又は補修する。
- (3) 寡日照、高温、多湿対策として日中に換気や病害虫防除を行う。

3. 夜間は変温管理を行う。

- (1) 夜間の設定温度は、4段サーモなどを活用した温度管理を行う。
- (2) 品質や収量に影響のない設定温度で、管理を行う。

4. 暖房効率を高める。

- (1) 暖房機の熱交換面を清掃する。
- (2) 暖房機のノズルの交換、空気量の調整をする。
- (3) 温度センサー位置は生育ステージに合わせる等適切な位置に設置する。
- (4) 温風ダクトの配置は、穴の間隔、ダクト間隔を調整する等適正に配置する。
- (5) 循環扇等の利用のより、温度ムラを少なくし、過剰暖房を防ぐようにする。

5. 栽培管理の工夫を行う。

- (1) 整枝、誘引、摘葉等適期管理を行い、採光を図る。
- (2) 品目によって異なるが、夕方適温で、ハウスを閉めて保温する。
- (3) ハウス北側の妻面やサイド部を防寒資材で被覆する。
- (4) 節油のあまり、適温を下回る管理をしない。

※収量が上がらなくては意味がありません。人体もそうですが、農産物も温度変化には敏感です。農産物を守るのは作物を作る生産者です。



スリップス (アザミウマ) について



花卉

吉澤 清
下島営農指導センター
080-1774-5386

今回は花き類で高温乾燥時に多発するスリップス(ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ)について紹介します。

ミカンキイロアザミウマ(主に花・蕾に寄生)

虫は体長1.0~1.7mm。黄色黒褐色。

ミナミキイロアザミウマ(主に葉に寄生)

成虫は体長1.3mm前後、全体が黄色で羽の合わせ目が黒く筋状に見える。

・生理生態

卵~成虫までの期間は10~20日

成虫の寿命は30~40日

成虫の1匹の雌は150~300個を産卵し、1ヶ月後に300倍に増殖します。

蛹の時期が近づくと地表へ移動し、土中で蛹になります。

休眠しないので、施設内では冬でも発生します。

施設では2月下旬から増加し始め、5~6月に最も活発に活動し、初夏~初秋に大量に増加します。

成虫の飛翔能力は低く、自力で5m程度しか移動できません。

・被害の特徴

・新葉、新芽でひっかき傷に似た症状や茎の曲がりや葉の奇形が見られます。芽の中に潜り込んでいるため、発見が難しくなります。

・展開葉に寄生した場合、加害部が白く光ったように見え、周辺に小さく茶~黄色の虫が見られます。

・蕾に侵入した場合、特に色の濃い品種ではカスリ状の症状が現れます。

・防除対策

耕種的防除

・施設内では、作付前に除草し、ハウスは閉め切り、次の作付けまで20日以上空け、成虫を餓死させます。

・本種の発生した施設では土壌消毒を行い、蛹または成虫を死滅させます。

・株や苗で持ち込まれる場合が最も多く、株や苗を購入する場合は本種が寄生しているかどうか確認します。

・黄色、青色の粘着トラップで発生の有無を観察して、発生動向に十分注意する。

・木酢液を噴霧することで、スリップスを忌避する効果があります。

・砂糖を200倍~500倍に希釈し、有機リン剤を溶かして噴霧すると、新芽や蕾から這いだし、舐めて死滅します。

・薬剤防除

・薬剤防除については、スリップスの種類や葉害等がありますのでお近くの営農センターまでお問い合わせください。



11月・12月の柑橘園管理

果樹

原口 悠貴
下島営農指導センター
080-2725-7775

1. 病害虫防除

	対象病害虫	防除時期	農薬名	希釈倍数	使用回数	収穫前使用可能日数
温州	貯蔵病害	収穫前	ベンレート水和剤 混用	4,000倍	4回以内	前日まで
			ベフラン液剤	2,000倍	3回以内	前日まで
	越冬害虫	12/下~1月/中	ハーベストオイル	60倍	—	—
中晩柑	貯蔵病害	収穫前	ベンレート水和剤 混用	4,000倍	2回以内	前日まで
			ベフラン液剤	2,000倍	2回以内	前日まで
			ベフトップジンフロアブル	1,500倍	2回以内	前日まで

2. 施肥、葉面散布

○通常タイプ

施肥時期	品種名	10a当たり施肥量	肥料名
11月上旬	ポンカン・早生・中熟・普通温州	5袋	ニュー熊本果樹3号
	清見・河内晩柑 甘夏・パール柑	3袋	
	デコボン	4袋	

○収穫が終わった品種は樹勢回復対策を行いましょう。

資材名	使用倍数	備考
尿素 又は アミノジューシーN14 又は 神協スピリッツ	500倍	収穫後3回以上集中散布

3. 河内晩柑落果対策

2回目(1回目から20日後): マデックEW 2,000倍 + 尿素 500~1,000倍

4. カンキツのヘタ落ち防止対策(甘夏など)

収穫20日~10日前まで: マデックEW 2,000倍(使用回数1回まで)

5. デコボンの水腐れ軽減対策

散布適期を逃さない様、貯蔵病害の薬剤散布前に単剤で行いましょう。

○ジベレリン液剤40mlの場合(0.5~1ppm)

対象品種	実施時期	薬剤名	使用濃度	1ビン当たりの水量	使用液量(10a当り)	収穫前日数
デコボン	着色終期	ジベレリン液剤	0.5ppm	400ℓ	50~500ℓ	7日前まで
			1ppm	200ℓ		

最後の子牛セリ市

天草家畜市場半世紀の歴史に幕

9月17日、10月から県家畜市場と統合する天草市佐伊津町の天草家畜市場で最後の子牛セリ市が開かれました。天草全域から子牛が集められ、各地から集まった購買者達は真剣な眼差しで応札していました。この日は219頭の子牛がセリに掛けられ今回の市場平均価格は556千円となり、前回の7月セリからは約52千円上回りました。

JAあまくさ畜産部会長 山下和則さんは「天草家畜市場には半世紀天草の畜産を支えてもらったことに感謝している。統合後は生産者一丸となって天草黒牛ブランドの継承しながら子牛価格向上に努めたい」と話しました。

